

「レッドステージ移行後の教育活動等について」の専門家のご意見

専門家等	意見
朝野座長	<p>感染クラスターの発生は、学校でも起こっているが、若年者は重症化することが極めてまれであり、かつインフルエンザと異なり社会的な流行の原因とはなりにくいことがわかってきており、教育の機会を保障するため現行の教育体制の続行は妥当と考える。一層の感染予防策の徹底は継続ください。経験として、みかんなどの食べ物の共有もリスクがあることがわかってきているのでご注意ください。</p> <p>一方で、家庭に帰れば、重症化リスクのある家族と接する可能性もあるため、感染伝播するリスクのある体育や音楽の特定の授業項目への制限は妥当と考える。また、可能であれば、すでに会社、飲食の場面での感染事例の公表も大阪府が行っていることから、プライバシーに十分配慮の上、教育現場での感染事例の場面の例も示していただき、経験の共有をはかっていただきたい。</p> <p>基礎疾患のある児童、学生、不安のある家族に対する配慮も妥当と考える。</p>
掛屋副座長	<p>レッドステージ移行後の教育活動の基本的な考え方について、大阪府の提案に賛成である。健常な児童・生徒は重症化も限られており、教育の機会を奪うべきではないと考える。教育の現場で基本的な感染対策を教育・継続することは、児童・生徒にとっても新しい生活様式を実行していく上で重要であると考え。一方、基礎疾患を有する児童・生徒等の一部のハイリスク対象者に関しては、慎重に対処すべきと考える。</p>
茂松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1教室40人、(全員が前を向く)スクール形式での授業は維持できる。マスク着用、室温を維持しながら換気を十分する。 ・給食時にアクリル板を設置できる環境であれば、間隔を取って対面で食べることも可能だが、困難な場合はスクール形式が望まれる。 ・体育については、マスクを外して行わざるを得ないと考える。このため、柔道など、密な距離感に陥る可能性がある種目については、見送ることも含めて検討する必要がある。共用使用する機具の消毒を行う。 ・クラブ活動については、狭い部室での更衣を避ける。身体接触する活動は避ける。楽器を使用する場合はアクリル板などで飛沫を防ぐ。楽器の共用は避ける。困難な場合は一定の制限を設ける。 ・高校生のアルバイトについては、飲食関連では夜の時間帯を避けるよう要請すべきと考える。家庭経済への影響も考え相談に乗ること。 ・音楽の合唱については、マスクを着用のうえ十分距離を取って行うことが望まれる。換気をしてかなりの飛沫が飛ぶことを想定する必要がある。戸外での音楽活動も検討に入れる。 ・調理実習、理科の実験、グループワークはマスク着用を徹底し、物品の共用を避けて、できる限り従来通り行う。 ・学校行事はその目的を生徒と十分に話し合い、可能な限り中止でなく縮小し、工夫して行う。 ・感染拡大防止対策は生徒自ら工夫を凝らすことで定着し健康教育に繋がる。生徒たちの意見を聞く場面を必ず持つこと。 ・不安で登校できない生徒に対し、オンライン授業の活用が望ましい。その場合双方向性、クラスにも参加できるように努力すること。 ・年末年始、冬休み中の生徒の教育活動は原則行わない事。公式戦など考慮を要するものもある。教師についてはこの限りでない。 ・入学者選抜について感染拡大防止策を徹底し通常日程で行う。